

市長と森井選手に
聞きました

あきる野市の魅力を語り尽くす!!

生まれも育ちもあきる野市という共通点を持つ2人が

あきる野市の魅力について過去と現在、未来の視点から、語り合いました。

自己紹介をお願いします!

森井 生まれも育ちもあきる野市で、もともとは五日市の館谷に住んでいました。競技の関係で様々な地域に出向きますが、その中でもあきる野市は自然と融合した、自然に近いまちだと思っています。

市長 森井選手のお父さんは釣りが好きだったと記憶しています。

森井 そうですね。子どもの頃は父親に連れられて川に行くことが多かったと思います。

市長 森井選手のお父さんの年代は、鮎釣りをやっている人口が多かった時代ですからね。自分の両親はやっていませんでしたが、私は、夏休みは毎日川に行っていました。

森井 中嶋市長の SNS を見ると、秋川だけでなく日本中の川で釣りをしていますよね。

市長 はい。日本中に良い河川はありますが、秋川のように、東京湾から天然で遡上して、鮎が食べられるという環境はなかなかないと思います。森井選手は大会等で世界中に行っていると思いますが、比べてみるとどうでしょうか。

森井 都会から、ものの 30 分～40 分でこれだけ自然豊かなところに来ることができるというのは、世界中でもなかなかないと思います。

市長 あきる野市に住み続けている理由を教えてください。

秋川のように、東京湾から天然で遡上して、鮎が食べられるという環境はなかなかない・・・

森井 国立スポーツ科学センターや自身の拠点である長野県上田市の菅平高原の近くに引っ越すのは簡単だと思いますが、自分はあきる野市が好きなので住み続けています。

自然もそうですが、瀬戸岡では獅子舞、五日市だとお神輿があります。三大まつりなど、そういった文化が根付いているのは良いなと思います。それと、何よりも市民の皆さんがたくさん声をかけてくれることが大きな理由です。コロナ禍であまり行かなくなってしまいましたが、以前、五日市ファインプラザでトレーニングしていると、たくさんの人に声をかけてもらいました。それは自分にとってかけがえない財産ですし、あきる野市以外に行って得られるものではありません。もちろん色々な方から応援をいただいているのですが、それを言葉で直接肌感じられる場所はなかなか少ないので、そういった面でもあきる野市のことを大好きだと感じています。

30年前の自分について

森井 当時 14 歳～15 歳の中学 3 年生で、マラソンイベントが何かで多西小学校から秋多中学校まで走った記憶があります。一番血気盛んだった時期かなと思います(笑)。

市長 自身の長男が生まれた年が平成 7 年でした。当時、まだ議員ではなかったので、日々の仕事を一生懸命やっていたと思います。

今の自分について

森井 今はミラノ・コルティナ 2026 パラリンピックにすべてを注いでいます。車椅子の生活になってからも前向きでいられたのは、障がい者スポーツがあったからだと思っているので、恩返しも兼ねて頑張らないといけないと考えています。出ようと思えばあと 3 回くらいは出場できると思いますが、表彰台の一番高いところを目指してチャレンジできるパラリンピックはこれで最後かなと思っています。

市長 これだけの長い期間、世界のトップを維持できることは並大抵のことじゃないと思います。スイッチの切り替えなど、ルーティンがありますか。

森井 全くありません。365 日、スキーのことを考えています。頭の中は 90% スキーのことで、残りの 10% が家族のことだったり、会社のことだったり、ありがたいことに競技に集中できる環境を作ってもらっているので幸せ者だと思っています。

市長 つらいと思うことはないんですか。

森井 ありません。むしろ専念できることが幸せだと感じます。

あきる野市長

中嶋 博幸

1966年あきる野市生まれ。家業の製材業を営みながら市議会議員を務め、令和4年から現職。座右の銘は、上げる心と三方良し。趣味は、アユの友釣り。



あきる野市の好きなところを聞きました

あきる野ふるさと大使

森井 大輝選手

1980年あきる野市生まれ。高校生の時に事故で脊髄を損傷し、車椅子の生活となる。病院で見た長椅子の生活となる。病院で見た長椅子パラリンピックをきっかけにチェアスキーを始める。あきる野市民栄誉賞受賞者。トヨタ自動車所属。

まちの変化について

現在

森井 16歳の頃に車椅子の生活になったのですが、ちょうどその時期に秋川キララホールや市役所本庁舎、図書館など、市全体のバリアフリーが進んでいったので、車椅子の生活に馴染むことができました。今も少しずつ歩道の段差が小さくなったり、ハード面でどんどん進化していると感じています。ハー

ド面だけでなく、障がい者や高齢者などに対して優しくなれるように、ソフト面で心のバリアフリーを進めていければ良いと思います。

市長 川の状況は50年前と比べてだいぶ良くなったと感じています。社会全体で環境を良くしていこうという取組をしてきたので、そういうところは目に見えて変わってきたかなと思います。

また、当時はあきる野市においても、ど

んどんまちの整備が進んでいった時期でした。以前は人が増えていくことを前提としていたものを、現在は人口が減少し少子高齢化時代になってしまったことから、人が減っていく前提で考えていく必要があります。そういった今こそ、あきる野らしさを大事にする時だと思いますし、そのらしさを出せるポテンシャルがあきる野市にはあると思っています。

10年後の自分について

未来

森井 10年後はもうアスリートではないと思いますが、後進の指導はもちろんのこと、誰かの役に立てる人でいたいと思っています。

市長 スキーはずっと続けていくのでしょうか。

森井 生涯スポーツだと思っているので、雪上には上がってみたいと思います。10年後の自分を見たときに、いきいきと何かを追いかけていけるような、胸を張れる自分でいたいですね。自分の中で大切だと思っているのはチャレンジすることだと思っているので、アスリートとしてではなく、別の形でチャレンジしたいなと思っています。

これからのまちについて

森井 できればもっとたくさんの人が来て、公園に子どもたちの笑い声があって、学校帰りの時間には子どもたちがたくさん歩いているよ

うな、更に活気のあるまちになってほしいですね。子どもたちの笑顔や笑い声は、まちに活気を与えてくれる宝物だと思うので、子どもたちや子育て世代の人たちが生活しやすいまちになってくれると良いなと思っています。

市長 政治に限らず、次世代の人が活躍できるような環境づくりのサポートを、何かしらの形でできたらと考えています。若い人たちがいきいきと活躍できること、それを周りの人たちがサポートしたり、常に応援してくれる環境、雰囲気が続けられていくことが、本当の地域の活性化だと思っています。

そういったところのお手伝いを生かしていってきたいですね。

子どもたちや子育て世代の人たちが生活しやすいまちになってくれると良いな・・・



森井選手のジャケットのステッカーは、日本障害者スキー連盟のゴールドパートナー及びパラアルペンスキー日本チームスポンサーです。

